



経済日誌

2024年8月15日～2024年9月14日の主な出来事(新聞記事等より)



8.20 渋滞解消へ時差出勤

熊本県と熊本市は、共通の政策課題を協議する「県・市調整会議」を市役所で開き、9月に合同で時差出勤・テレワークに職員が取り組むことを申し合わせた。熊本都市圏の深刻な交通渋滞解消に向けた短期施策の一環。九州FGと傘下の肥後銀行も本取組みに連携して、熊本市の九州FG本社や肥後銀本部に勤務する従業員計820人を対象に、時差出勤とテレワークに取り組むと発表した。

8.21 合志市人口 6万5千人を突破

合志市の人口が6万5千人を突破した。合志市は2006年2月、旧合志町と旧西合志町が合併して誕生。隣接する熊本市への通勤や通学の利便性が高く、宅地開発が進み、子育て世代を中心に転入者が増えた。TSMCの菊陽町進出も寄与した。熊本県内では、熊本市、八代市、天草市に続いて4番目の人口の多さ。合志市は今後も人口増加は続き、2029年に7万人を超えるると推計している。

8.23 県農林水産輸出 最高更新

熊本県は、2023年度の県産農林水産物の輸出額が前年度比16%増の122億4千万円となり、11年連続で過去最高を更新したと発表した。県が掲げていた目標額110億円を達成。分野別では、農畜産物が22%増の54億2千万円となり、初めて50億円を突破。林産物が17%増の39億円、水産物は5%増の29億2千万円と続く。

8.24 7月消費者物価 熊本市2.6%上昇

熊本県が発表した7月の熊本市の消費者物価指数(2020年=100、生鮮食品を除く)は、前年同月比2.6%上昇した。電気代は政府の値上げの影響で、前月連続で伸び率は前月と同じ。電気代は政府と約45年ぶりの大幅な上昇となった。全国の前年同月比は、108.3で、前年同月比2.7%の上昇

8.31 熊本ーソウル 11月再開

韓国のアジアナ航空は、熊本空港とソウルを結ぶ定期便を11月7日から月・木・土曜の週3往復で再開すると発表した。同社は2016年の熊本地震後に熊本ーソウル線を事実上撤退しており、運航は約8年半ぶり。今回の運航再開で熊本空港の国際線は、ソウル線が週10往復に増え、台湾・台北線、香港線と合わせて週26往復となる。

9.6 半導体集積効果 11.2兆円

九州フィナンシャルグループは、TSMCの熊本県進出に伴う半導体関連産業の集積が県内にもたらす経済波及効果が、2022年から31年までの10年間で約11.2兆円に上る試算を発表した。10年間の経済波及効果の内訳は、進出企業の土地造成、工場建設などを含む「投資」が3兆6577億円で、「生産」が7兆5343億円となった。

9.7 「そらよか」10月26日開業

熊本空港を運営する熊本国際空港は、旧国際線ターミナルビル跡地一帯で整備を進めている「そらよかエリア」を10月26日に開業すると発表した。そらよかエリアは、航空機の搭乗客以外も利用でき、約4千㎡の屋外広場と飲食店などが入る商業棟、ビジターセンターからなる。

9.10 熊本の在留外国人 昨年末最高に

熊本県は、外国人材との共生推進本部会議を熊本市内で開き、県内の2023年末の在留外国人は、前年同月末比1.9%増の9万9千人となり、過去最高を更新したことを明らかにした。特に台湾からの在留者は1549人と、23年6月末時点(511人)の3倍超を記録。TSMC進出による駐在員らの流入で大幅に伸びたとみられる。

以降は会員専用ページにて公開しております。
ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)